公立大学法人 福島県立医科大学附属病院　患者サポートセンター

2023 5月

患サポ通信
ーささえちゃん便りー

第 109 号

新緑の美しい季節となりました。
患サポ通信では、当院各科・部の特色や新たな取り組みをご紹介しております。
今月号では、麻酔・疼痛緩和科、小児外科の２つの科をご紹介いたします。

麻酔・疼痛緩和科

麻酔・疼痛緩和科では、手術のための麻酔、集中治療、緩和ケア、ペインクリニックなど多岐にわたる診療を行っています。

そのなかで、ペインクリニックで診療している帯状疱疹関連痛についてご紹介します。

帯状疱疹は、水痘罹患後数十年を経て、背髄後根神経節に潜伏感染している水痘帯状疱疹ウイルスが再活性化することで生じます。

加齢、免疫抑制剤の使用、免疫不全状態、心理的ストレスなどが危険因子として知られています。

COVID ワクチン接種と帯状疱疹の関連性についても時折話題となりますが、現時点では信頼できる調査がなく不明です。

帯状疱疹は 50 歳以上で増加し、約２割が帯状疱疹後神経痛に移行すると言われています。当科では、帯状疱疹の痛みに対し神経ブロックと内服による治療を組み合わせて行っています。

痛みに対する治療は、帯状疱疹発症後３カ月未満での介入が特に有効です。

抗血栓療法や免疫抑制の程度などにより神経ブロック等の施行が難しい場合もありますが、帯状疱疹の発症から１カ月程度経っても痛みが強い患者様については、当科までご相談下さい。

【麻酔・疼痛緩和科】

２面は、小児外科のご紹介です

小 児 外 科

【小児外科の診療内容】

○　当科では 15 歳までの小児に対し、頚部から胸部、腹部、臀部まで幅広い疾患の治療に携わっています。

小児外科疾患の特徴は先天的な異常が多く、手術を中心に、その機能を正常に近づけ、患児が将来安心して生活できるように配慮した治療を計画していきます。

大学病院の役割として先進医療・低侵襲手術にも積極的に取り組み、機能の回復だけでなく、傷を小さくすることを目指し、腹腔鏡、胸腔鏡など小さなカメラを用いた手術やロボット手術、3D 画像をガイドにした手術など、低侵襲な手術をより安全に行うことを第一に考えています。

また、当科では、小児肝不全症例に対し、肝胆膵・移植外科と協同で肝移植を行っております(詳しくは移植医療部 HP をご覧ください)。

【当科の役割】

○　当院みらい棟には総合周産期母子医療センターとこども医療センターが開設されており、県の周産期、小児医療における重症もしくは希少疾患の患児が集まってきます。

胎児期から新生児科、産科と連携し、出生後すぐに新生児の治療を行ったり、時には 1000g 未満の未熟児へ手術・外科的処置を行ったりすることもあります。

また、県内外の小児がん患者さんに対する治療については当院へ集約化されており、当科は小児腫瘍内科とともに固形悪性腫瘍に対する集学的治療に携わっております。

一方、当院は県内唯一の小児特定集中治療室(PICU)を有しており、高次医療を要するような重症の小児患者さんを 24 時間体制で受け入れ、高度な集中治療を提供することができております。

こども医療センターの病棟スタッフは小児に特化した専門性を兼ね備えており、県内各地から入院してくるお子さんが安心して入院生活を送れる環境を提供しています。

○　我々は新生児期から 15 歳までの幅広い年齢層の中で、個々の医療ニーズに合った治療法を患者さんごとに考えながら治療を行っています。

我々は上記のような重症疾患や希少疾患だけでなく、小児鼠径ヘルニアなど比較的頻度の多い疾患に対しても、当院もしくは関連病院にて診療しております。

また、夜間・休日でも受け入れ体制は整っておりますので、お困りのことがございましたらいつでもお気軽にご相談ください。

【小児外科】

【発行元】公立大学法人福島県立医科大学附属病院　患者サポートセンター
〒960-1295　福島市光が丘1番地　TEL:024-547-1885(直通)　Email:tourokui@fmu.ac.jp